宗像

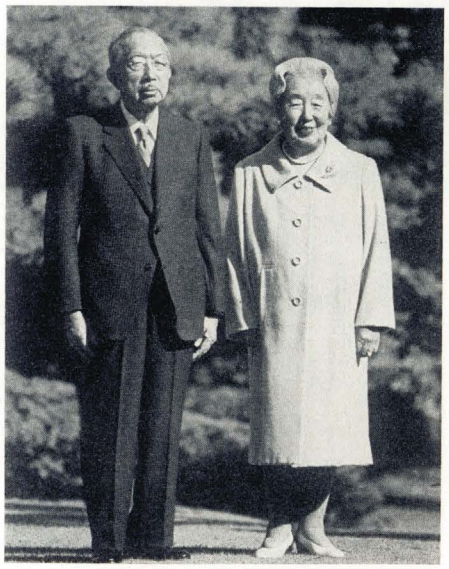
毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像会
〒811-85 福岡県宗像郡玄海町
電話 0940-62-1311代
定価 一年送料共 1000円

奉祝　昭和六十一年　皇紀二千六百四十六年

元号還暦．聖寿萬歳

今上陛下のご聖徳に感謝をこめて

宗像大社宮司　葦津嘉之



◎ 御大婚六十年をお迎えあそばされた天皇皇后両陛下（昭和59年1月）

新年おめでとうございます

新春を寿ぎ、つつしんで皇室のいやさかと、氏子ならびに崇敬者各位のご健康とご幸福とを心からお祈り申し上げます

旧年中は氏子の皆様をはじめ、崇敬者、特信者各位の、ご厚志と格別のご尽力をいただきまして、当大社恒例の御祭儀すべてが盛大に斎行されましたことに対し心からお礼申し上げます。また海上神幸祭、大菊花展をはじめ、数多くの神賑行事、奉納行事も皆様のご協力により無事に終えることが出来ました。数々のご奉賛、ご協力に対し重ねて厚くお礼申し上げます。

本年も黎明輝く新春と共に神郡宗像はすがすがしく明けました。

宮司以下の神職が、本殿をはじめ高宮祭場、摂末社の元旦祭を奉仕し、国家の平穏、皇室の御安泰、氏子崇敬者各位の幸福を祈念申し上げ、新しい年の第一歩を踏み出しました。

何卒本年も旧年に変らずご奉賛、ご協力、ご指導をたまわりますよう、お願い申しあげます。

さて昨年は今上陛下が、御位につかれて六十年、その御在位はわが国、歴代の皇室において最長を記録するのみならず、世界史上稀にみるめでたい記録の年でありました。

私ども神社関係者も全国こぞって奉祝行事をさせていただきましたが、今年八十五才のご高齢をお迎え遊ばされた陛下が益々お元気に、国務に宮務に御精励いただけますことは、誠に有難いことであります。

特に今上陛下、六十余年の御治世は、戦前戦後を通じ国史上かって前例のない波乱に満ちた時代でありました。その間ただのひとときも、御心が安らかなる時はなく、ひたすら国民の幸福と国家の繁栄、更に世界平和のために御尽辛を賜わりました。

しかも陛下は現在経済大国日本といわれる中で、世界中で最も注目される日本国の代表者として、ご活躍をいただいております。

その真摯なお姿に対し、テレビ番組で有名な、ポーランド出身の、マリア・ゴドレブスカさんは、新聞紙上で次のように述べています。

陛下はとても上品で温かみを感じます。八十歳を過ぎてあれだけかわいい方っているかしら。私は大ファン。陛下の「…うれしく思います」なんて口癖をまねしちゃうの。汚い政治などにタッチしないで、だれよりも高く立っていらっしゃる。天皇は日本人の最も良いところ、上品なところの代表でしょ。尊敬できる方はどこの社会でも必要です。でなければ国民は高いところを見なくなっちゃう。

天皇制は続いてほしい。ポーランドは王制がなくなりましたが、後悔しても後の祭りです。

と皇室が日本の社会に果される大きな役割を率直に述べていますが、昭和も還暦を迎えた今日私たち日本人は二千有余年続いた皇室のご聖徳に対し、いま一度感謝をこめて考え直す時だと思います。

今年四月二十九日の天皇誕生日には、政府主催の「御在位六十年記念式典」が行なわれ、両陛下はお祝をお受けになられるご予定ですが、本年こそ全国民がこぞって心から聖寿の萬歳と御礼の御祝福を申し上げたいと思います。

二月十一日には国旗を掲げ建国記念日を祝いましょう

敬神生活の綱領

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

皇室関係出版物のご案内

皇室関係の良書は皆様のお手許にはいりにくいと思いますので、当社で調査しました選書を御紹介申し上げますので、ふるってご購読下さいますようご案内申し上げます。

○天皇さま
著者　杉田幸三
発行　神道政治連盟中央本部・東京都渋谷区東四—一二—二六。電話〇三—四〇〇—三六八三
B6版三十頁

○今上天皇の六十年
著者　小堀桂一郎
発行　青葉会・東京都渋谷区代々木神園町一—一明治神宮社務所内。電話〇三—三七九—五五一一
B6版五八頁

○天皇さまと日本のこころ
私たちの時代「昭和」を考える
中高校生のために
著者　三輪尚信
発行　神社本庁・東京都渋谷区東四丁目十二—二六
電話〇三—四〇〇—七五三一
A5版三七頁

○天皇陛下ありがとうございます
奉祝天皇陛下御在位六十年
著者　各界有志
発行　日本を守る国民会議・東京都渋谷区神宮前六—十九—十五　高野第一ビル七階。電話〇三—四九九—二五三三
B6版二五〇円

○私たちの皇室
写真集
編集　工藤毅志
発行　株式会社学習研究社・東京都大田区上池台四—四十—五。電話〇三—七二〇—一一一一代表
B5版二五〇頁
価格　二三〇〇円

この他左記の通り多数の良書がございます
背広の天皇　甘露寺受長
皇室と国民　木下道雄
侍従長の回想　藤田尚徳
機関銃下の首相官邸　迫水久常
三代回顧録　松村謙三
現代天皇家の研究　高橋紘
宮中侍従物語　入江相政
天皇　葦津珍彦
今上陛下御製集　大東塾

○天皇陛下
御在位六十年をことほぐ
著者　天皇陛下御在位六十年奉祝委員会
発行　東京都渋谷区神宮前六丁目十九番十五号、高野第一ビル七階。電話〇三—四九九—二五三九
B5版六四頁

○天皇陛下
御在位六十年をことほぐ
著者　天皇陛下御在位六十年奉祝委員会
発行　東京都渋谷区神宮前六丁目十九番十五号、高野第一ビル七階。電話〇三—四九九—二五三九
B5版六四頁

○私たちの皇室
写真集
編集　工藤毅志
発行　株式会社学習研究社・東京都大田区上池台四—四十—五。電話〇三—七二〇—一一一一代表
B5版二五〇頁
価格　二三〇〇円

この他左記の通り多数の良書がございます
背広の天皇　甘露寺受長
皇室と国民　木下道雄
侍従長の回想　藤田尚徳
機関銃下の首相官邸　迫水久常
三代回顧録　松村謙三
現代天皇家の研究　高橋紘
宮中侍従物語　入江相政
天皇　葦津珍彦
今上陛下御製集　大東塾

昭和六十一年　1986

交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

福岡日産自動車株式会社
取締役社長　有吉龍健
福岡市博多区千代1丁目21番37号
電話 (代) 633—5523

福岡日産モーター株式会社
取締役社長　長崎久吉
福岡市博多区東比恵2丁目14—33
電話 (代) 441—2323

日産プリンス福岡販売株式会社
代表取締役　永田千秋
福岡市中央区平尾3丁目5—3
電話 (代) 531—9561

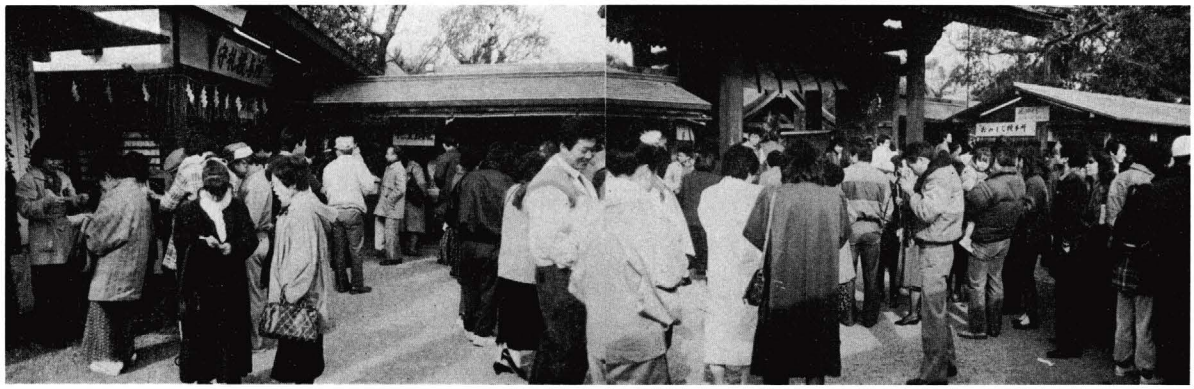
NISSAN
——今年も安全運転を心掛けて下さい——

日産サニー福岡販売株式会社
代表取締役社長　小田切忠夫
福岡市博多区半道橋1丁目9番10号
電話 (代) 411—4132

日産ディーゼル福岡販売株式会社
取締役社長　中堂廣
福岡市博多区榎田1丁目4番3
電話 (代) 411—1831

日産チェリー福岡販売株式会社
代表取締役　小西正彦
福岡市博多区半道橋1丁目10番10号
電話 (代) 471—1123

紫雲たなびく
昭和六十一年の夜明け
――社頭の賑わい人、人、人――



昭和六十一年元旦の朝は紫雲の中に太陽が輝いた。

皇紀二千六百四十六年、平年、丙寅（ひのえとら）である。古語にある様に、虎は一夜に千里を駆け千里を帰ると云う。

日本の歴史を見てもこの寅年には異変が多いと云われている、今年の無事安泰を祈る人々の波は、午前零時の神門開門と同時に終夜続いた。

昭和六十年を締めくくる除夜祭も滞りなく終り午後九時頃には境内に人影もなく、照明のみが明るく輝いていた。

師走の空に星影はなく、樹木の影も動く事なくしずかに闇にしずみ、微風に動く新しい〆縄のシデの白色があざやかに闇に浮んで見えた。午後十一時頃、神門前の大庭燎に火が入った、パチパチと火の粉を上げ、赤々と周囲を照らす、この頃には三々五々、初詣の人影が多くなる。

昭和六十一年一月一日、午前零時時、閉ざされていた神門が大きく開かれると、神前に初詣を待ち続けた人々は拝殿に集う。浄闇に音高く拍手が響く、「新年明けましておめでとうございます」の挨拶が人々の間に流れる、新守札を求める人、破魔矢、鏑矢の金、銀の短冊がキラキラと輝く、正月風景である。

祈願殿前大駐車場は参拝車輌で埋っている、道路はライトの光りが続く、クラクションの音、交通整理員のホイッスル等すべての雑音が一つのハーモニーを生み、境内すみずみまで流れる雅楽の音に合唱する、正月祭独特の賑わいを見せて来る頃、東の空がうす明り、山々の黒い影が一段とあざやかに浮んで来た。

今年の三ケ日は暖かい正月日和であった、祈願殿、儀式殿、本殿の太鼓は切れ間なく境内に響いていた。

四日、神郡宗像は、純白の初雪でおゝわれた、五日も雪である、近年にない九州ではめずらしい初雪となった。この初雪で参拝者の足はひと休みの状態となった。土曜、日曜日であった関係で、正月里帰の人々の足に悪影響をおよぼし、早くも寅年の風を吹かした感ある雪であった。しかし六日より天候は回復し、年度始めの運輸関係会社、商店各社の新春の交通安全、繁栄を祈る人々で賑わいを見た。今年の三ケ日の参拝者、車輌台数は一日二十一万人、五万台。二日十六万人、三万台。三日十五万人、二万八千台と、例年通りの人出であった。新年の慶賀と幸を祈ります。

御礼

当大社恒例の大祓式斎行に当りましては、宗像市・郡内氏子各位並びに全国崇敬者の皆様より、多数の人形をお寄せ戴き、お蔭を以ちまして、祭典は天候にも恵まれ滞りなく、盛大裡に斎行致すことが出来ました。

ここに誌上を以ちまして謹んで御礼申し上げます。

昭和六十一年一月吉日

宗像大社
宮司　葦津嘉之

崇敬者各位

献米袋配布並に取纒め御礼

昭和六十年度、宗像大社献米奉告祭斎行にあたり、市・郡氏子各位への献米袋配布並に取纒めにつきましては年末年始お忙しい中、御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。

祭典は例年にまして盛大厳粛に斎行致すことが出来ました。

ここに誌上をもちまして謹んで御礼申し上げます。

昭和六十一年一月吉日

宗像大社
宮司　葦津嘉之

宗像大社氏子会
会長　山本三吾

宗像大社氏子会評議員
〃〃総代　各位

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

昭和六十一年元旦

宗像大社責任役員会
宗像大社氏子総代会
宗像大社沖中両宮奉賛会

宗像大社責任役員会
代表役員　葦津嘉之
責任役員　出光昭介
〃　吉本弘次
〃　永倉三郎
〃　河野幸人
〃　山本三吾
〃　占部真太郎
〃　八波武
〃　田中富樹
〃　宇都宮弾

宗像大社氏子総代会
会長　山本三吾
副会長　河野幸人
副会長　八波武
〃　田中富樹
〃　藤井睦雄
監事　吉田寿夫
〃　楠田繁男
〃　寺島忠夫
〃　黒石雅資

宗像大社沖中両宮奉賛会
会長　河野幸人
副会長　沖西彰
〃　佐藤鶴吉

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

昭和六十一年元旦

宗像大社社務所

宮司　葦津嘉之
権宮司　宇都宮弾
祢宜　養父守
〃　宗像清文
〃　太田可愛
権祢宜　升谷勝良
〃　大野宗康
〃　山田幸雄
〃　神島定
〃　石橋清寿
〃　提宏
〃　東弘
〃　高向正秀
〃　門司成人
〃　玉木正之
〃　渡辺秀丸
出仕　杉山安彦
〃　藤川耕一
巫女　七田千恵
〃　河井晴美
〃　白石美奈子
〃　村田知世
〃　樋口寿美江
〃　志藤紀代子
〃　小島由美子
〃　松本美樹
〃　福崎かつえ

巫女　杉野優子
〃　永田里美
〃　花田京子
〃　水上久美
〃　木原麻由子
〃　吉田章子
〃　春田千鶴子
雇員　七田五月
〃　坂本智恵美
傭員　渡辺和夫
〃　大西長生
〃　吉武隆則
〃　花田清己
〃　嶺千鶴子
〃　吉田タミ子
〃　広橋康子
〃　中野富子
〃　目原ヒサヱ
学芸員　松本肇
嘱託　堺豊三郎
〃　桧山一郎
〃　石井忠
〃　河窪奈津子
警備　橘一幸
〃　松崎孫四郎
講師　中村吾郎
〃　小方百枝

昭和六十一年　1986

交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

愛される車をめざして
TOYOTA
福岡のトヨタグループ

福岡トヨタ自動車株式会社
取締役社長　金子宜嗣
福岡市中央区渡辺通り4丁目9番25号　電話(代)761-3331

トヨタオート北九州株式会社
取締役社長　卜部典明
北九州市八幡西区皇后崎町14番6号　電話(代)642-2111

福岡トヨペット株式会社
取締役社長　野村恵之
福岡市博多区東光1丁目6番13号　電話(代)411-1121

トヨタカローラ博多株式会社
取締役社長　久恒鑛造
福岡市博多区豊2丁目3番50号　電話(代)441-2111

トヨタビスタ福岡株式会社
取締役社長　喜多村禎勇
福岡市中央区薬院1丁目5番8号　電話(代)714-6661

トヨタカローラ福岡株式会社
代表取締役社長　金子宜嗣
福岡市中央区長浜2丁目1番5号　電話(代)712-7111

トヨタオート福岡株式会社
取締役社長　金野宗次
福岡市博多区竹下2丁目2番31号　電話大代411-5511

トヨタビスタ北九州株式会社
代表取締役社長　大石勇
北九州市八幡東区桃園2丁目1番1号　電話(代)662-7811

第十四回 宗像大社献詠短歌大会

福岡県知事賞に

北九州市門司区　佐藤英一氏

第十四回宗像大社献詠短歌大会（主催＝宗像大社歌会、後援＝毎日新聞社、協賛＝福岡県・福岡県教育委員会・玄海町教育委員会・宗像大社氏子会）が、昨年十一月十日（日）午前十時より当大社清明殿に於て、宗像大社歌会山本三吾会長以下、百数十名の参加により盛大に開催された。

先ず斯道の発展と、参加者の無病息災を祈念して、献詠神事が斎行された。神事終了後大会に入り、山田輝彦先生による「和歌のこころ」と題した講演を行っていただいた。芥川龍之介・与謝野晶子や現代歌人の詠んだ和歌を例に参加者にわかりやすく講演がなされ、一時間の講演時間がとても短く感じられた。昼食の後四名の選者の先生方より自己紹介がなされ、その後永富氏（宗像大社歌会幹事）の司会により、約二十首の詠草の相互評、先生方による講評が約二時間半に亘り熱心に行われた。その後本大会の選考方法の説明があり、今大会の入選歌並びに入賞者が発表され、表彰式が執り行われた。午後四時には全ての次第が終了し、参加者一同来年の再会を約し散会した。

尚、入選歌並びに入賞者は次の通りである。

（敬称略）

※大会開催規約により当日正午迄の出席者を入賞とする（得票数上位の方でも入選の資格なし）

〔選者賞〕

一席・福岡県知事賞
門司区　佐藤　英一
過ぎてゆく貨物列車の輛数を勤めゐし日のごとくに数う

二席・福岡県教育委員会賞
宗像市　金丸　柳蔵
子を連れて生きて帰りし故郷は楮を晒す降る雪のなか

三席・宗像大社賞
宗像市　立石ろせ乃
むし暑き厨に胡瓜刻みつつ汗にずりおつる眼鏡をはづす

六席・毎日新聞社賞
宗像市　八波　五月
足引きていまだ水当てする老の水口覗く目の亡き姑の手箱の中に亡き夫のインクの褪せし軍事郵便ありき

〔互選賞〕

一席・宗像大社歌会々長賞
遠賀郡　坂梨サカエ
農やめて十年経れど穂盛りの稲田に依れば穂に触れてみる

二席・宗像大社氏子会々長賞
遠賀郡　田中　秀樹
安全帽斜に冠りし電工の頬あかく染め夕日は落つる

三席・玄海町教育委員会賞
宗像市　加来　幸夫
リハビリに矢次ぎ早なる問なれや百より九引け七つ引けとて

四席・毎日新聞社賞
中間市　浜口　秋雄
離れ住む子等と拓きし丘畑に今年限りの西瓜を捥る

五席・毎日新聞社賞
宗像市　古田千代子
籾殻より出したる山芋の芽の白く裡なる生命手に伝い来ぬ

六席・毎日新聞社賞
宗像市　八波　五月
足引きていまだ水当てする老の水口覗く目のすがすがし

七席・毎日新聞社賞
田川市　佐々木　明
悲しさよ「ピエロ」の如きわが影と炎天の舗道隻脚に踏む

八席・毎日新聞社賞
福間町　松尾　和子
みどり児に吸わすことなく老いづきしまるき乳房を湯舟に浸す

〔佳作入選〕

一席・宗像市　石田さよ子
糖尿の夫に合わする薄味をいつよりか吾が舌もなじめり

二席・糸島郡　中原信次郎
片手のみ握力残る長病みの兄いつまでも吾をはなさず

三席・玄海町　池口　力夫
枇杷包む白き袋が花のごと見ゆるとの村団地建ちゆく

四席・玄海町　占部ユキ子
秋晴れの庭に広げし大豆の実の小さき音たて陽にはじけ散る

五席・福間町　中村　勇
くさり櫃み岩場を登り来る妻に金剛杖をさし出してやる

六席・小倉南区　古賀萌子
一点を凝視して行つ白鷺の冠毛を吹く朝の川風

七席・玄海町　山口　和江
山住みのこよなき友よ朱の小鳥日にいくたびか硝子戸たたく

八席・遠賀郡　吉田　照子
鳥取の砂丘の起伏なだらかに広ごる間に海の青みゆ

九席・糸島郡　郡　鈴子
テレビ修理の夜業終りて子が去りし店にこほろぎの澄みて鳴き出づ

十席・門司区　大迫　雪子
渓流の中に立ちゐるわが足の甲しろじろし揺らぐがに見ゆ

宗像大社養父禰宜夫人――峯子さん

二度目の快挙!!

――歌会始の儀（水）入選――

灼熱の鋼あをみそめ
ふり灌ぐ
千筋の水の
気化いさぎよし

福岡県　養父峯子

この歌は今年新春の十日宮中において行われた、歌会始めの儀に入選された福岡県、養父峯子さんの入選歌である。

養父峯子さんは、当大社養父守祢宜の夫人で、去る昭和五十八年歌会始の儀に初入選された。この年の御題は「島」玄界灘の孤島、沖ノ島で奉仕される夫の帰りを待つ妻心を詠まれ、当時、斯界で評判になった。

今年の御題は「水」である。御題の発表時、一昨年秋、北九州市、新日鉄起業祭の折、見学した熱延工場の現場で見た感動が歌となって頭に浮んだという。

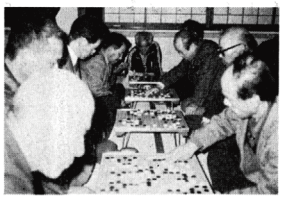
どろどろに溶けた真っ赤な鋼鉄に冷却水がシャワー状に降り注ぐ、水は瞬時にして水蒸気となるさまに感動され、〃人生かくありたい〃と願った時生れたと語られる、夫人のおだやかな容姿から想像も出来ない心眼である。三年前、歌会始の儀のあと宮中別の間で、陛下より『いっそうの精進を』とのお言葉を入選者一同に賜わった時、今一度のチャレンジ精神に、もえたそうである。

三年ぶりに二度目の入選通知を受けられた峯子夫人は、「陛下への心の誓いが果たせました」とにっこり語られた。

宮内庁総務課広報係によると今年は三万一千三百二十三首の中より九首が選ばれたと云う。養父夫人もこの歌に幾度も手を加えられ、作品郵送は締め切り当日の十月十日であったと聞く。今回の二度目の快挙は、新春にふさわしい慶事であり心よりお慶び申し上げます。

宗像本因坊戦

栄誉の大賜盃西野五段の手に



恒例の宗像大社本因坊戦は境内に菊花薫る去る十一月十七日午前十時より、当社清明殿及び斎館に於て行われた。今回は十三回目を迎えるが、参加資格は宗像郡内に居住する有段者に限られ、その中で一般選手によるリーグ戦と、これとは別に四、五段クラスの最高実力者十六名による宗像本因坊位の栄誉をかけてトーナメント戦が行われるもので、その年の実力ナンバーワンを決定する郡内囲碁界の最大行事である。

当日は七十七才の高齢者を含む壮年者等の中に交じって十四才の中学生（四段）も加わり、約百名が参加した。

一同は開会に先立ち本殿でお祓いを受け、心を新たにして棋戦に臨んだ。

本大会は勝敗とは別に、成績優秀者には昇段の恩典も与えられるとあって、会場は和気藹々の中にも磐上火花を散らす熱戦が展開され、一喜一憂の星のつぶし合いが進められた。

本因坊の栄誉をかけた決勝戦は、西野、福永両五段の対決となり、最後迄予断を許さぬ力戦に盤側に集った観戦者は固唾を飲んで勝負の行方を見守り、会場の熱気は最高潮に達したが、遂に西野五段に凱歌が上った。

晴の宗像本因坊の栄位についた西野五段には、従来のトロフィーに代えて今回新調した銀の大賜盃が贈られ、その栄誉を称えた。

宗像本因坊
津屋崎町東町
五段　西野照章

準優勝
津屋崎町星ケ丘四丁目
五段　福永雅通

社務日誌抄

十二月一日　月次祭斎行
十二月三日　中津宮恵比須祭斎行
十二月四日　宗像大社神符頒布式・氏子評議委員会
十二月七日　出光釜沢光運会参拝
十二月八日　美保神社宮司横山直材氏参拝
十二月九日　宗像大社古文書編纂委員会
十二月十日　大分県二宮神社総代六名参拝
長崎県諏訪神社宮司上杉千郷氏外二十四名参拝
十二月十一日　正月祭関係四者会談
十二月十三日　式内社顕彰会九州支部結成式
十二月十五日　古式祭・鎮火祭斎行
十二月十九日　松尾神社祭斎行・北筑杜氏組合関係者参列
鴻池組・毛利博物館関係者十名来社
十二月二十一日　愛知県一ノ宮市博物館準備委員岩野氏来社
十二月二十六日　神社本庁調査部長栃尾泰治郎氏来社
十二月二十八日　地元総代・協力会正月祭準備奉仕
苫小牧東部石油備蓄㈱苫小牧事業所片桐正秀氏参拝
十二月三十一日　大祓式・除夜祭斎行

昭和六十一年　1986

交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

福岡スバル自動車株式会社
取締役社長　中井　隆
福岡市博多区東光二丁目六番八号
電話 代表 411 八一三一番

福岡いすず自動車株式会社
代表取締役社長　山下哲也
福岡市博多区東那珂三丁目十番十号
電話 代表 411 一五三一番

福岡ダイハツ販売株式会社
代表取締役社長　内山　学
福岡市博多区東比恵四丁目十番十一号
電話 代表 411 一三三一番

福岡日野自動車株式会社
取締役社長　植竹陽介
福岡市東区箱崎ふ頭二丁目五番七
電話 代表 641 一一七三番

九州三菱ふそう自動車販売株式会社
取締役社長　宮﨑慶一
福岡市東区箱崎ふ頭五丁目番二
電話 代表 641 八一八一番

宗像大社歌会 俳句作品集（二七三）

大井　吉田　杏子
旅果てて帰る寂寥冬銀河

香椎　板矢クニコ
封を切る煙草のけむり天高く

津屋崎　西住喜三郎
四王寺は十戸あまりや紅葉散る

田熊　安部　ゆき
姉病みて点滴ながく夕時雨

鐘崎　岩瀬　辰夫
初雪や湯川の山にほんのりと

福岡中央　力丸玄風
暁闇に神鼓高鳴る初明り

津屋崎　井浦　良介
羽子板つく裾の汚れに気を配る

藤沢　井上　玄洋
砂浜の枯草遠く富士近し

福間　広渡一寿軒
ふぐの値の騰る師走や蕪太る

田熊　力丸　一郎
しるしせしあの日とこの日や古暦

第二九四回 宗像大社歌会詠草

中村吾郎　選

毎月末日〆切

東福間　山本　夏枝
歳月を神に仕ふるひとにして拍手の音冴えてひびけり

（評）充分な単純化が感動を盛り上げた。特殊性をもつ捉え方にも新鮮さを覚える。

戸畑　田中ハツセ
大徳寺の精進料理食べ終へて朱塗りの器七つ重ぬる

（評）眼に映るということは具象が適確であるという事。さりげない表現ではあるが、下句の具体が鮮明。

吉留　白木うめの
人の往き来絶へたる峠の庚申塚今は落葉に埋もれてゐむ

（評）人も通った、作者も往き来した旧道の峠の庚申塚。その塚の四季が言外に感じとられる。

原町　八波　五月
着ぶくれて広きむしろに豆叩く姑が目に顕つ今日秋日和

大島　目原　節子
曇りたる一日を裏の崖に咲く黄菊はみずからの光を放つ

大島　大島　勝代
小春日を映し流るる筑後川芦の中洲を鷺群れて翔つ

自由ケ丘　後藤君代
法要を終へし心の安らぎに公孫樹落葉の寺庭歩む

深田　中野　節子
手習ひする我らに賜ひぬまっ白に洗ひ清めしみ寺の銀杏

武丸　立石ろせ乃
いく度の野分うけたる柿の木に鳥の形の枯葉が一枚

田久　立花　勇雄
愉しみて運びゐるらし老妻は僅かな小豆をけふも日に干す

大島　板矢あきえ
沈丁花の蕾ほのかに紅らみて冬の光のあたたかに射す

鐘崎　山脇ふみえ
女ゆへ初詣も出来ず織幡宮に庭先へ出て拍手をうつ

通り堂　木梨ヨシノ
一日を蜜柑採りたる夫の手に皺割れみつけクリーム差し出す

鐘崎　安永　久子
まち望む孫はなけれどテレビにて子供の健康心して聞く

宮田　片山　朔子
五十年忌営み終えて寒の日々愛しみて綴る父の想い出

池田　小田　イセ
老いづきし吾を気遣ふ子や嫁の言葉掛けくるる敬老の日に

東郷　藤崎　辰子
登校のあと静かなり雪解けて黒く濡れたる町裏の道

香椎　桜井　ツ子
五十年前をなつかしむ教へ子の病みて文字乱るる葉書届きぬ

原町　中村　幸
宵を降る時雨の音に安らぎて何も彼も抱り寝ねむとぞする

田熊　力丸　一郎
落葉ちる路傍にはじめし蜜柑屋の赤き幟を寒風あおる

津丸　古賀　文月
降る雪をかむれる庭の水仙の最早つぼみのふくらみており

田熊　今村　重刀
裸木の中にくろぐろ葉をつけてくれない濃ゆき寒椿の花

福間　広渡一寿軒
幼な孫を転ばせし石叱りつつ砂払いやり手を引きて行く

徳重　石松や寿子
裏庭の梅が一輪咲きたるに心なごみて年の瀬を越す

曲　天野トモエ
冬陽さす庭に朝より働けば木々を飛び交ふ目白の親子

宗像大社一ケ年祭事表

一月一日	歳旦祭
一月二日	新年祭
一月三日	元始祭
一月十三日	献米奉告祭
一月十五日	成人祭
二月三日	節分祭
二月十一日	建国祭
三月十九日	松尾神社祭
三月二十一日	皇霊殿遙拝式
四月一・二日	春季大祭
四月二日	宗像護国神社祭
四月二十三日	沖・中両宮春季大祭
四月二十九日	天長祭
五月五日	五月祭浜宮祭
五月二十七日	沖津宮埠地大祭
七月十五日	祇園祭
七月三十一日	大祓式並夏越祭
八月十五日	護国神社戦没者追悼祭
九月一日	千灯明
九月二十三日	風鎮祭
十月一日	皇霊殿遙拝式
十月一～三日	海上神幸「みあれ祭」
	秋季大祭「田島放生会」
十月三日	宗像護国神社祭
十月十七日	表千家々元献茶祭
十月十八日	沖・中両宮秋季大祭
十一月三日	明治祭
十一月十二日	遷宮記念祭
十一月十五日	七五三祭
十二月二十三日	新嘗祭
十二月十五日	古式祭並鎮火祭
十二月十九日	松尾神社祭
十二月三十一日	大祓式並除夜祭
毎月一十五日	月次祭

賀正

玄界灘の景観を一望できるシーサイドコース
雄大でフラットで距離のある（コースレート七二・五）名門格式ある一流コース
（開場昭和三十八年）

西日本開発株式会社
玄海ゴルフクラブ

福岡県宗像郡玄海町
電話〇九四〇六二二三三三㈹

節分祭ご案内

新春を迎え、貴家益々、御清栄の段慶賀に存じます。扨て、当大社恒例の節分祭を左記の如く斎行致しますので御参拝下さいますよう御案内申し上げます。

記

一、日　時　昭和六十一年二月三日　午前十時
一、会　場　当大社祈願殿

昭和六十一年一月吉日

宗像大社社務所

各位

一月二十六日～二月九日迄、厄除祈願祭を左記により終日執り行います。

記

一、祈願祭典場　於儀式殿
一、祈願初穂料　一人　三〇〇〇円
一、授与品　福升一箇（福豆入一合）

厄除守一体

賀正

松尚開発株式会社
福岡国際カントリークラブ

池と赤松の三十六ホール

福岡県宗像市大字朝町
電話〇九四〇三二三五四四㈹

新年おめでとうございます

○玄海国定公園の中心……風光明媚……生魚料理……宗像大社からバス五分……神湊旅館組合

あけぼの荘　電話〇九四〇六二二六六番
魚屋旅館　電話〇九四〇六二二一二二番
みなと荘　電話〇九四〇六二二三五五番
玄海旅館　電話〇九四〇六二〇〇〇一番
高嘉旅館　電話〇九四〇六二一二二一番
望海荘　電話〇九四〇六二一八一一番
ニュー千鳥荘　電話〇九四〇六二〇〇六八番
大島屋旅館　電話〇九四〇六二〇五五五番
喜楽旅館　電話〇九四〇六二〇三三三番
松風荘　電話〇九四〇六二〇一二〇番
泉館旅館　電話〇九四〇六二〇〇三五番
玄洋荘　電話〇九四〇六二二一七二番
川口屋旅館　電話〇九四〇六二〇〇四八番
勝浦荘　電話〇九四〇六二二四七一番
はま荘　電話〇九四〇六二〇五〇〇番